

11月の献金

幼い難民を考える会

〈カンボジアの現状〉

内戦終結から20年余り。

いまだに戦争の爪痕は、カンボジア社会に暗い影を落としています。

医療、教育、保健、児童福祉、貧困、社会福祉、人権、地雷撤去などカンボジアのさまざまな社会課題を支援する海外のNGOは500団体以上。その支援総額は、2億USドルにのぼり、ODA総額は実に国家予算の3割。まだまだ外国の支援なしでは十分に機能しない国なのです。

「幼い難民を考える会」とは1980年、難民キャンプという過酷な環境でも、懸命に生きる子どもたちを目の当たりにし、何かできないか、と始まった団体です。

難民キャンプでは保育センター「希望の家」を3カ所で展開、約8,000人の子どもたちの保育を行い、一緒に活動を盛り立ててくれたカンボジア人スタッフは、13,000人にのぼります。



子どもが大人に見守られ、大人を見て育つ。家庭から、そして地域へ、国全体へ。それが、再び難民を生み出さない平和な社会を築く礎となる



難民キャンプ閉鎖後も、再び難民を生み出すことのないよう、カンボジア社会の安定化に寄与していくという選択をし、カンボジアの人たちが生活を取り戻し、基盤を築けるようになるまで、「幼い難民を考える会」には何ができるか、を考えました。その答えが「幼児の保育」と「女性の支援」です。平和で豊かな心と知識を持つ人材を育てていくことが、カンボジアの明るい未来を切り拓くと信じて、私たちは、幼い子どもたちのために活動を続けているのです。

そして、お母さんである女性の自尊心と自立能力を高めていく活動に取り組んでいます。

献金日：11月25日(月)

お祈り担当：3-C